

① オオフサモ（アリノトウグサ科）【特定外来生物】



<生態>

南アメリカ原産の多年生の抽水植物。

ほぼ全国に分布。緩やかな流れの開放水面を好み、水深30cm以内の環境に生育。

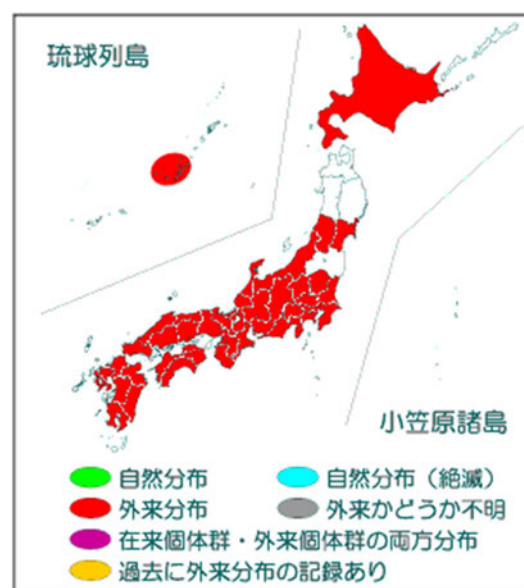
国内に定着しているのは雌株のみで、3月～11月にかけて栄養繁殖で群落を拡げる。茎がちぎれやすく、植物断片（切れ端）の節から根や茎、葉を再生して生長する。

<見分け方>

水面の上まで茎を伸ばさせ、直立した茎が水面を覆う。鳥の羽のような白みを帯びた緑青色の葉が、1節に5～6枚ずつ付く。



<分布域>



分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース（令和7年2月現在）より引用

<対策のポイント>

- ・**重機、手作業**による除去が一般的。植物断片からも再生するため、除去作業の際には、下流側にオイルフェンス等を設置し、**切れ端を拡散させない**ように対策を取って作業を行う。
- ・オオフサモが繁茂した**水路上に遮光シート**を張る方法では、枯死までに**2年間程度の処理期間**を要するが、深さ15cm程度までの土中に伸びる**地下茎や根**を底泥ごと剥ぎ取り、その後、残渣から再生しないように遮光すると処理期間を短縮できる。
- ・地上部が衰弱する**冬季（12月～3月頃）**に駆除を実施する。

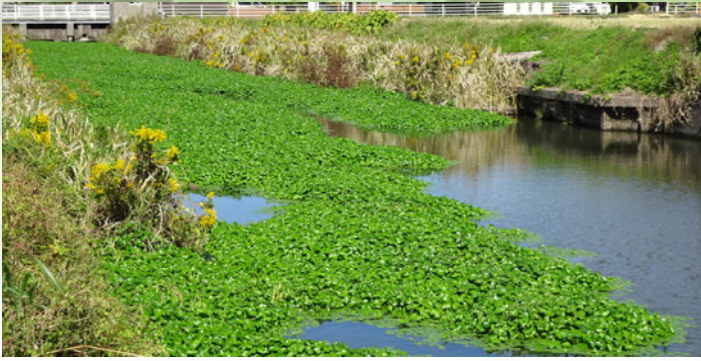


水路上に遮光シートを張った状況



遮光開始から約半年の状況

② ブラジルチドメグサ（ウコギ科）【特定外来生物】



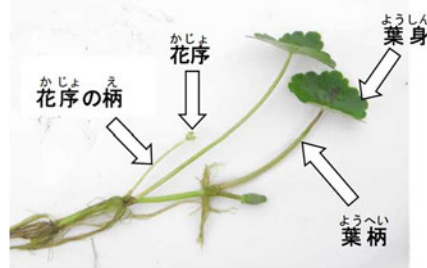
<生態>

南アメリカ原産の多年生の抽水植物。

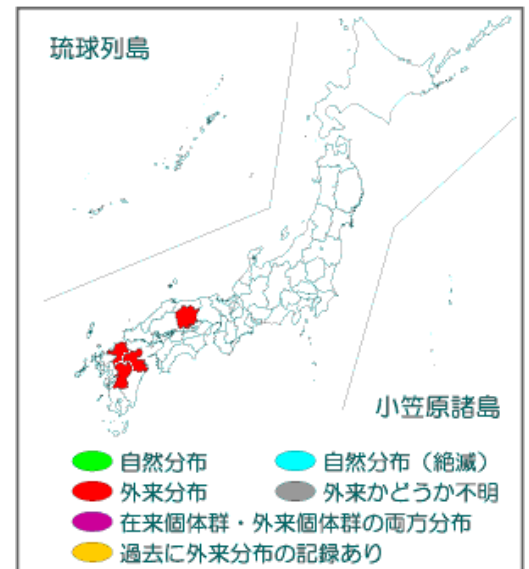
西日本の一部に分布。3月～11月にかけて主に栄養繁殖により群落を拡大するが、種子繁殖も行う。茎はちぎれやすく、切れ端の節の部分から茎葉や根を出して生長する。寒さに強く、冬季も枯死しない。

<見分け方>

花序の柄は葉柄よりも短く、花序は葉よりも上に出ない。葉は切れ込みが深く、表面に光沢があり、直径3～7cm。多肉質で葉柄が太い。



<分布域>



分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース（令和7年2月現在）より引用

<対策のポイント>

- ・**手作業**による除去が一般的。
- ・地表から15cm程度までの深さにある**地下茎や根もできるだけ除去する**。
- ・除去作業の際には、下流側にオイルフェンス等を設置し、**切れ端を拡散させない**。
- ・種子でも増えるため、**開花・結実期（4～6月）より前に除去し、種子散布を防ぐ**。
- ・水底に根を張ると除去が困難になるため、**水面に浮かんだ状態**で除去する。

かんがい期（落水前）



非かんがい期（落水後）



③ オオバナミズキンバイ（アカバナ科）【特定外来生物】

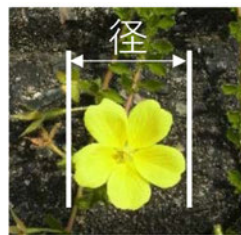


<生態>

南アメリカ及び北アメリカ南部原産の多年生の浮葉～抽水～湿生植物。2007年に兵庫県で確認され、現在は近畿地方の他に東北、関東、九州地方でも定着を確認。種子繁殖と栄養繁殖を行い、冬季に地上部は枯死するが、地下茎は越冬し茎断片から再生する。

<見分け方>

黄色い花弁を5枚もつ花をつける。花の大きさは4～5cm。地上茎には粘る毛が密生。葉の縁には細毛があり、茎に交互につく。類似する在来種のみずキンバイ（希少種）は、花がやや小さく（2～5cm）、茎に毛がない。



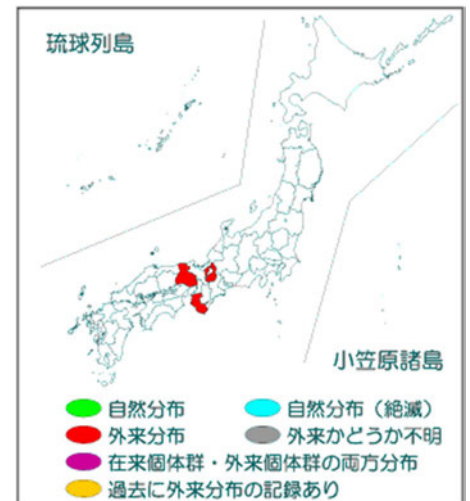
花（径は4～5cm）



茎に毛があり、葉は茎に交互につく



<分布域>



分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース（令和7年2月現在）より引用

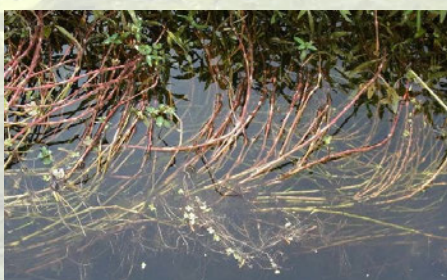
左写真は、類似する在来種のみずキンバイ（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）

<対策のポイント>

- ・群落の規模が大きい場合は、**水草刈取船**や、水際に集積し**バックホウ等の重機**を使用して除去する。群落の規模が小さい場合は**手作業**により**地下部も含めて抜き取り**除去する。
- ・除去作業の際には、下流側にオイルフェンス等を設置し、**切れ端を拡散させない**。



水草刈取船（ハーベスタータイプ）



- ・増殖がとても早く、また種子でも増えるため、**開花・結実期（6～10月）より前に**除去し、種子拡散を防ぐ。

← 水中に茎が密生している様子

④ ナガエツルノゲイトウ（ヒユ科）【特定外来生物】



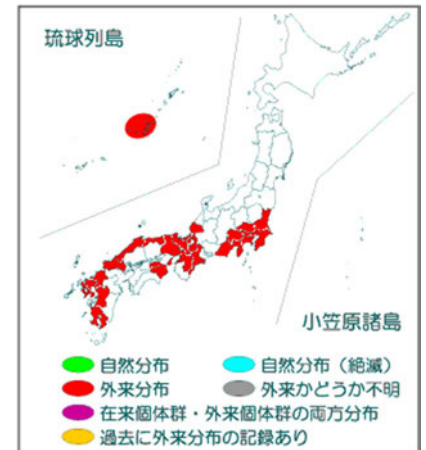
<生態>

南アメリカ原産の多年生の抽水～湿生植物。1989年に兵庫県で確認後、本州西部以西～沖縄県に急速に分布が拡大。現在は、西日本を中心に関東、中部地方等に分布。

4～10月頃に白い花をつけるが、種子繁殖は確認されていない。栄養繁殖が旺盛で、ちぎれやすく、植物断片（右写真）から容易に再生する。冬季に地上部は枯死するが、根茎部で越冬する。乾燥に非常に強く、除去後に陸に上げてても発根し再生する。



<分布域>



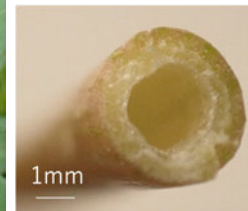
分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース（令和7年2月現在）より引用

<見分け方>

花は1～4cmほどの長い花柄の先端につく。茎の中は空洞（ストロー状）で、葉の先端はややとがっている。水田や水路周辺には、類似した白い花をつける種が多い（P9ミズヒマワリを参照）。



花（長い花柄）



茎



葉

<対策のポイント>

- ・**重機、手作業**による除去が一般的（**同一水系で連携した対応が重要**）。
- ・根は50cm以上になることもあるが、可能な範囲で**地下茎や根ごと除去**する。
- ・茎はちぎれやすいので、除去作業の際には、**切れ端を拡散させない**ように対策を取る。
- ・農地（田）内で繁茂してしまった場合は、**除草剤を用いた防除**が可能。
- ・まん延防止のため、給水栓にネットを被せる等、極力侵入・流出させない取組が重要。

● 水路改修時のナガエツルノゲイトウを含む泥土の処理方法

- ・ナガエツルノゲイトウが繁茂する水路の改修工事で発生した根茎混じりの泥土は、これまでは遮光シートで2年間程度覆うなどの方法がとられていたが、**夏季（7～9月）に1～3か月程度の陽熱処理（8月上旬までに開始）**により本種を枯死させることが可能。



水路工事で発生した土を陽熱処理している様子

※ ナガエツルノゲイトウ防除に係る具体的な方法は、農林水産省HP「ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル」をご活用ください。

⑤ チクゴスズメノヒエ（イネ科）【重点対策外来種】



<生態>

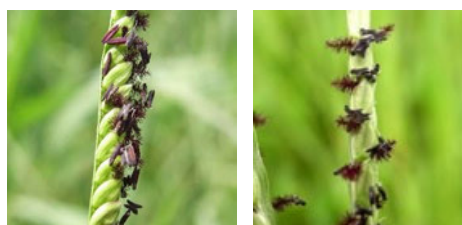
北アメリカ原産の多年生の抽水～湿生植物。1970年代前半に九州筑後地域で初めて確認され、その後急激に分布域を拡大。日本では本州、四国、九州、沖縄に分布。種子繁殖のほか茎を伸ばしての繁殖、植物断片（節があれば）からも容易に再生する。地上部は、冬季の低温乾燥により枯死するが、土中や水中の茎は生存し、翌春に萌芽する。

<見分け方>

総（花のあつまり）が2本（まれに3本）あり、茎に細かい毛が密に生える。近縁種のキシウスズメノヒエも総は同数だが、花の付き方が異なり、茎に毛がない。

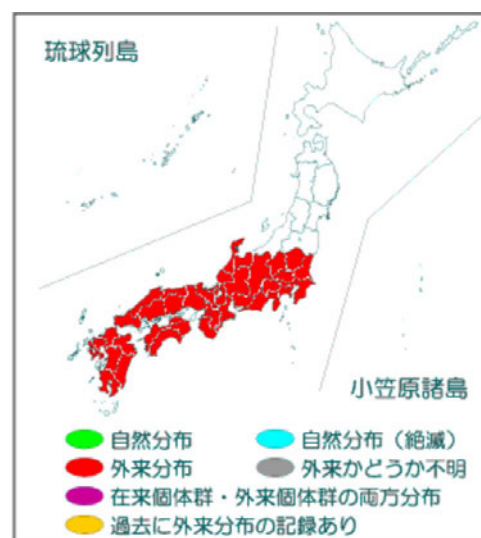


総（花のあつまり）



チクゴスズメノヒエの花（左）とキシウスズメノヒエの花（右）

<キシウスズメノヒエの分布域>



分布図は、国立環境研究所 侵入生物データベース（令和7年2月現在）より引用

※チクゴスズメノヒエは、キシウスズメノヒエの変種で、ほぼ同様な生態的特徴と被害形態を持つ。

<対策のポイント>

- ・群落の規模が大きい場合はバックホウ等の**重機により底泥ごと群落を剥ぎ取り**、群落の規模が小さい場合は**手作業により地下部も併せて抜き取り**除去する。
- ・作業の際には、下流側にオイルフェンス等を設置し、駆除により発生する**切れ端を拡散させない**。



駆除に手製の熊手や錨が使われた事例



人力による駆除作業の様子

- ・本種は、主に栄養繁殖を行うが、**種子繁殖**も行うため、出穂期に当たる**7月頃**よりも前が、分布域の拡大や翌年の作業量の増大を防ぐための**除去作業の適期**である。